

「基礎基本の徹底から表現活動へ～スタンダード・ルーティーン～」(2年生)

授業者 肥沼 則明

### 1 本授業のねらい

授業はある程度の中・長期的スパンの中で行われるものなので、本時のみのねらいを明確にすることは簡単ではないが、あえて言えば以下のとおりである。

→授業全体をとおしてコミュニケーションしようとする態度を育成するとともに、「話すこと」「聞くこと」を中心としつつ4技能の力を総合的に伸ばすための一コマとする。

また、これは授業者の公開授業に対するこだわりであるが、公開授業だからといって派手な「打ち上げ花火」をご覧に入れるのではなく、日々の地道な活動をそのままお見せすることで、どなたにも実行可能な指導のネタを提供することに主眼を置いた内容の授業をこれまで行ってきたつもりである。そこで、今回は以下の2点を公開授業の重点とすることにした。

① 「(復習)→導入→展開→整理」という流れのスタンダードな指導例の1つを示す。

② 文法導入の教材はできるだけ既習のものや教科書にあるものを使う。

したがって、今回はこれまで以上に極々普通のルーティーン・ワークを見ていただくつもりであり、教科書は昨年公開授業の次時にあたる部分を扱うことにした。「先端の…」とか「研究的な…」という授業を期待されて参加された方には大変申し訳なく思う。

### 2 本授業の構成

本時の授業は、次の4つの大きなパートで構成されている。

- |  |
|--|
| <p>① <u>既習事項を総合的に使った「聞くこと」「話すこと」のコミュニケーション活動</u></p> <p>② <u>身近な題材や既知の話題を利用して帰納的に理解させる新文型の導入</u></p> <p>③ <u>「聞くこと」「話すこと」と「読むこと」を併用した教科書本文の導入</u></p> <p>④ <u>教科書を使って正しい音・リズム・場面に応じた抑揚などを身につける表現音読</u></p> |
|--|

①は、普通授業の中で教科書の内容を教えること以外に何かできないかに行っている活動の1つである。今回は「既習事項を使って相手と話し、その内容を2人で聞いて書き起こす」というペア活動を考えた。ペアで活動することによる相互補助関係の構築も期待する活動である。

②は、オーラル・イントロダクションによる新文型の導入で、既習事項を使って生徒とやりとりをしながら目標とする文の意味と表現の理解を目指したものである。そして、今回は前時に使った教材を再度使うことで、できるだけ手間をかけないようにしてみた。

③は、オーラル・イントロダクション及びリスニングとリーディングの併用で本文の内容を理解させることをねらった指導である。今回は本文の一部を新文型の練習を兼ねてオーラルで導入し、残りは教科書CDを聞いたり本文を読んだりして確認していく方法を採用することにした。

④は、個々の音、リズム、場面に応じた抑揚の付け方などを継続的に指導する中で、伝えようとする気持ちを自然に表現できるようにさせることをねらった指導である。ほぼ毎回復習と新教材の両方で多くの時間を割いて音読をさせている(今回は復習音読なし)。

### 3 その他

本授業の生徒は、授業者の担任クラスの生徒である。他のクラスに比べてあまり英語が得意ではないので作業効率は高くないが、教師と一緒に授業を楽しもうという生徒が多く、不規則なものを含めると2年生としては発言が多いので、比較的活発な雰囲気の中で授業ができる。

資料は、本時で生徒が使うもののほか、今後指導することがわかるものを用意した。また、前担任学年で3年間続けた「終礼の話」の一部と、現担任学年でも続けている「続・終礼の話」の最新回(第43話)も載せた。授業を活発なものにするために、授業以外で担任クラスの生徒とどのように関わってきたかをご理解いただけるものと思う。